

■ブルガリア：原子力発電所新設の賛否を問う国民投票を実施

ブルガリアは 2013 年 1 月 27 日、原子力発電所新設の賛否を問う国民投票を行った。「ブルガリアは新たな原子力発電所を建設して原子力開発を行うべきか」の問いに賛否で答えるもので、投票率は 21%、賛成が 61%、反対が 39%であった。有効となるためには前回の総選挙の投票数（投票率で約 60%）を上回る必要があるため無効となった。但し、投票率が 20%を超えかつ賛成票が過半数を超えたため、議会で審議する必要がある。現ブルガリア政府は 2012 年 3 月に、経済性が見込めないとして、前政権が決めたベレネ発電所（VVER1000×2 基）の建設を断念し、代わりにコズロドイ発電所 7 号機を建設することとした。これに対し、現野党の社会党はベレネ発電所の継続を問うため、50 万以上の署名を集め国民投票を行うことになったが、議会は 2012 年 10 月、国民投票の内容を「ベレネ発電所」でなく、「新たな原子力発電所」の建設の賛否を問う内容に変更した。